2024年度下期

２０２５年９月３０日

みやぎ生協　福祉活動助成金　助成活動報告書

団体名	にじいろCANVAS	
代表者名	共同代表　　小浜　耕治、　小野寺　真、　太田　ゆき	
連絡先 TEL：０９０－２８８３－７０９４ FAX：		E-mail　nijiyagi.soudan@gmail.com

１、助成事業報告

助成を受けた事業名	セーフスペースにじいろみやぎ
事業の目的	１．2021年より活動してきた「セーフスペースにじいろみやぎ」を継続開催。 困難を抱えたセクシュアルマイノリティが孤立から抜け出し、回復し、社会に参加していくために安心・安全なスペースを提供し、回復の過程を支え合うコミュニティをつくり、地域コミュニティと支援機関や社会を繋ぐためにセクシュアルマイノリティの実態に沿った支援体制を構築していくことを目指します。 ２．スタッフ研修会の開催。 支援に必要なスキルである、聴く、話すについての研修を行うと共に、外部者の目を通し、自分たちの活動の振り返りと今後の展望を考える。
事業の具体的内容	１．セーフスペースにじいろみやぎの開催 ①2025年1月11日（土）13：30～17：30 会場：市内レンタルスペースにて※ ②2025年3月7日（土）13：30～17：30 会場：市内レンタルスペースにて※ ③2025年5月10日（土）13：30～17：30 会場：市内レンタルスペースにて※ ④2025年7月12日（土）13：30～17：30 会場：市内レンタルスペースにて※ ⑤2025年9月13日（土）13：30～17：30 会場：市内レンタルスペースにて※ ⑥2025年11月8日（土）13：30～17：30 会場：市内レンタルスペースにて※

	※開催場所は、参加者の安全安心を守るため公表していません。 2．スタッフ研修会 本助成金では、セーフスペースにじいろみやぎの③～⑤の開催費用とスタッフ研修会の開催の費用に充てさせて頂きました。 1月、3月、11月のセーフスペースの開催は、自己資金で開催。
活動の開始から完了までの流れ	1．「セーフスペースにじいろみやぎ」 1）2025年11月より広報活動と資金集め、開催会場の予約をはじめました。 ①にじいろCANVASパンフレット、カードの配架 エルパーク、エルソーラ、サポセン、みやぎ生協市内店舗等 ②SNSにより、開催の告知、広報を行った。noteでは、参加者に許可をとった 写真を掲載して、できるだけ当日の様子がわかるような報告を行っています。 X https://x.com/safe_nijiyagi?s=11&t=MYrBiKVYAVfywm3Dsaayhg Instagram https://www.instagram.com/safe_nijiyagi/profilecard/?igsh=djB3cm01ampqc__XN5 note https://note.com/2416canvas/n/n6f9fe5fb572a ③スタッフおよび協力者による手づくり物販の製作 ④みやぎにじいろパレードにて手づくりグッズの販売 ⑤協力店舗にて物販の販売 2）セーフスペース開催当日は、会場に30分前にはいり準備をし、13:30～17:30で参加者を迎えます。参加者は、以下のグランドルールを守り、自身の都合に合わせて好きな時間に参加し、退室することが可能です。 また、運営スタッフは、これまでの経験から以下の点に注意して進めました。 ・全員で同じことを一斉にやりましょうにならないようにすること ・開催場所はできるだけ日常を感じることができる場とすること ・安全・安心が守られる場であること 〈セーフスペースグランドルール〉 セーフスペースは、セクシュアリティ、年齢を問わず、誰もがほっと安心できる場所で、共に時間を過ごす場です。参加者の人権・プライバシー（安全）を守るために参加される方々は、下記のルールを守って参加してください。 1．呼ばれたい名前でご参加ください。まず、呼ばれたい名前での名札をつくりつけて頂きます。 2．自分のセクシャリティや個人的なことは話しても話さなくても良いです。 3．お互いの発言や意見を尊重しあいましょう。相手の意見を否定せず、まずは

	最後まで聞きましょう。相手の嫌がる言動はもちろんいけません。 4．アウティングに気を付けましょう。ここで知りえた個人的な事柄は、外で話たり公表してはなりません。 《付記》上記のことを踏まえて、自身のプライベート（住所や連絡先、SNS 等）情報を相手に伝える、相手から聞く場合は必ずお互いの同意を確認してからお願いします。聞かれた方の中には、自分でうまく判断できない場合や教えたくない場合もあるかと思います。そのような場合は「今は教えられません。」と断ることも大切です。お互いが傷つかないために、お互いにうまく伝えられない伝わらないと思った場合は、スタッフに相談してみてください。 3）打ち合わせの会議は、セーフスペースの開催終了後、会場にて対面・会場に来れないスタッフはZOOM を利用したハイブリットでおこないました。 当日の振り返り、次回の開催会場の設備など大まかな開催内容などを考えました。その後、次の開催までには、LINE や ZOOM 等を利用しての打ち合わせを行い、参加人数や天候なども考え買い出しなど具体的な準備は 1 週間程前から行いました。 3．スタッフ研修会 今回は、仙台市内でオープンダイアローグの実践をしている 2 団体から講師をお招きし、オープンダイアローグについての講義と実践を体験しました。 実践の方は、時間的な問題もありスタッフだけでの研修になりましたが、講義の方は、講師の了解も得ることができ ZOOM 開催として、公開開催としました。 <u>2025 年第 1 回公開スタッフ研修会</u> オープンダイアローグとはどのようなものか、医療現場以外（自助会や地域活動の中） でオープンダイアローグや対話がどのように取り入れられているのか、久保田晃祥（とらっち） さんが活動していらっしゃるヴィータ、FLAT の活動についてもご紹介頂きました。 講師： 久保田晃祥（とらっち） さん 仙台を拠点に、企業・個人研修、能力開発研修、人材開発コンサルティング、組織開発コンサルティング、自助会運営および支援、カウンセリング、発達障害支援、引きこもり支援事業を行う特定非営利活動法人ヴィータ理事長。一般社団法人オープンダイアローグ・アプローチ研究会 FLAT 共同代表。 開催日時： 8 月 9 日（土） 10：00 ～ 12：00 会場： オンライン ZOOM <u>2025 年第 2 回スタッフ研修会</u> 内なる自分の声を聴く。オープンダイアローグの体験。 日時： 9 月 13 日（土） 10 ： 00 ～ 12 ： 30 会場： 仙台市内 講師： 髙橋比呂志 さん（ロッシー）、スケさん（助手） 荒井地区で仙台オープンダイアローグをめざす対話実践研究会 世話人、オープンダイアローグネットワークジャパン・ネットワーク委員仙台市若林区荒井周辺での地域貢献を目的として「開荒井オープンダイアローグのつどい」を定期的に

	開催している。
活動の成果と教訓	助成金をいただけなかった場合は、有料での開催も考えましたが、参加者の年代は10代から60代と年齢にも幅があり、経済的背景にも差があります。この度、助成金を頂くことにより、2022年～2024年までと同様に2ヶ月に1回無料で定期開催するができました。 3回のセーフスペースの参加状況は、以下の通りでした。 2025年5月10日（土）は、参加者12名。（キャンセル1名あり） 2025年7月12日（土）は、参加者9名。（キャンセル3名あり） 2025年9月13日（土）は、参加者10名。（キャンセル4名あり） 本事業は4年目になりますが、今年も初めて参加してくださった方がいました。 必要な方に情報が届くよう、広報の工夫をしていきたいと思います。 また、参加者の方からは、「今回はおやすみですが、次回は参加したい。」と連絡をくださった方もいました。開催を待っていてくださる方がいらっしゃると言うことを大変うれしく思いました。助成金を頂くことで開催予定を公表できたと言うことは、参加者の方々が予定を立てることができ、楽しみや安心につながったと思いました。また、参加申込をしながらも、参加できなかった方もいらっしゃいますが、参加申込をしてくださったことは、孤立から抜け出す一歩と私たちは考えています。参加できる時に参加して頂けるよう、今後も定期的な開催の継続を実現していきたいと思いました。 開催当日は、できるだけ参加者の方が選んで過ごせるように、アクセサリーや手芸等の手づくりコーナー、おやつをつくる調理コーナー、絵を描くコーナー、ゲーム、本を読むコーナーを設置しました。今回頂いた助成金では、視覚障がい者用のゲームを購入させて頂きました。これまで、ユニバーサルな道具を準備する余裕がありませんでしたが購入することができました。障がいをもたれた方も参加しやすい場にもなって行けたらと思います。 スタッフ研修会では、講師に、仙台でオープンダイアローグの場を開いているお二人をお迎えし、2回にわけオープンダイアローグについて学びました。 1回目はZOOM開催で理論を中心にした学びで、講師の了解も得られたので公開のスタッフ研修会とし、スタッフ以外の方にも参加頂きました。発達障がいの方への就労支援をされている久保田講師の話から、オープンダイアローグが支援の場でどのようになされているのか具体的にお話を伺い、学びの多い時間でした。 2回目の髙橋講師のオープンダイアローグの実践編は、スタッフの多くが「オープンダイアローグ」を体験したことがない状態でしたので、スタッフ一人一人が話し手と、リフレクティングを体験するプログラムにしていただきました。スタッフからは、「対話の楽しさ、心地よさを感じる体験だった。」「オープンダイアローグの体験を通し新たな発見、気づきがあった。」との感想がありました。スタッフのリカバリーと共に、相談支援をしている講師とのつながることができ、大変有意義な研修会となりました。
今後の展望な	今後も、できるかぎり参加費無料で継続開催をしていきたいと考えています。継続してきたことで、事業についての認知が広まりつつあると思います。今後は、

ど	利用する人への周知だけでなく、応援してくださる方へに知って頂くような広報をし、カンパや物販での収入を得ることができるようになればと思います。 セーフスペースのスタッフ、応援団で作成したグッズを、おいて販売してくださるお店ができました。活動費の安定収益にはまだまだ結びつきませんが、一般の方にも知って頂く機会になりますので継続できればと考えています。 セーフスペースは参加者と共に過ごしやすいスペースをつくることを目標にしています。参加される方もスタッフも、楽しいという気持ちを大切にしながら継続していきたいと考えています。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	320,000	
自己資金	68,000	※2025年1月、3月、11月のセーフスペースの資金となります。
カンパ	4,100	※2025年1月、3月、11月のセーフスペースの資金となります。
合計	392,100	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
会場費 ※助成金支出	・セーフスペース会場、会議会場費、スタッフ研修会会場費 5/10、7/12、9/13	70,400	63,360
荷物運搬費	駐車場代、タクシー代	5,000	5,510
セーフスペース担当スタッフ日当 ※助成金支出	1,500円×5時間（13：00～18：00）×3名×3回	67,500	67,500
セーフスペーススタッフ事務費 ※助成金支出	1,500円／1時間×6名×6ヶ月（4～9月） （SNS配信、参加者管理、記録、物販管理等）	63,000	63,000
会議費 ※助成金支出	研修会・会議弁当代	15,000	9,240
印刷・コピー代 ※助成金支出	コピー、印刷、プリンターインク代、用紙代等	5,000	6,435

通信費 ※助成金支出	切手・レターパック、宅急便代等	5,000	4,470
ワークショップ材料費 ※助成金支出	食材、使い捨て食器、工作用具、文房具等	30,000	49,326
スタッフ研修会講師謝金 ※助成金支出	外部講師研修 ※１：計画段階では県外の講師に依頼する予定でしたが、日程調整の都合から 2 回にわけての研修会になり、1 回目が ZOOM での開催、2 回目が実践で仙台市内在住の講師に依頼したため、旅費を講師謝金にあてさせていただきました。	30,000	50,000
旅費 ※助成金支出	外部講師旅費	25,000	800
雑費 ※助成金支出	振込手数料等	4,100	440
合計	※オーバーした 81 円は、当団体が負担する。	320,000	320,081

＊用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

３、送付必要書類

① 福祉活動助成金　助成活動報告書
　プリントアウトしたものを１部郵送、データもメールでお送りください。
② 領収書のコピー（郵送）
③ 成果物（活動の様子がわかる写真、または事業で作成したものを郵送）
　＊写真は郵送とメールで送ってください。



2022年から開催している「セーフスペースにじいろみやぎ」は、参加者の方々とどのように居心地の良い空間をつくるかが私たちのテーマです。
2025年セーフスペースにじいろみやぎは、スタッフ研修会を開催します。
研修内容は、仙台でオープンダイアローグの学びと普及活動をされている、久保田晃祥（とらっち）さん、髙橋比呂志（ロッシー）さんを講師にお迎えしオープンダイアローグについて学びます。2回に分けて行う研修会の1回目のオンライン研修会は公開研修会としました。
居場所づくりやマイノリティへの支援活動をしている方、オープンダイアローグや対話に興味のある方々と一緒に学ぶことができたらと思います。
参加費無料。参加希望の方は、事前申込みをお願いします。

※オープンダイアローグとは、クライアント（相談に来た人のこと）本人のみならず家族のほか、治療者側も医師や看護師、臨床心理士など関係者が集まり対話を重ねる治療方法のことです。1984年に、フィンランドのケロプダス病院で、患者の入院手続きに際して、患者本人と家族、同僚や友人、関係のある専門家を集める手法をとるようになったのが始まりといわれています。統合失調症のケア技法として発展してきましたが、オープンダイアローグは医療現場だけではなく、福祉や教育などの現場でも応用可能と言われています。

《2025年度公開スタッフ研修会》 ※テーマに関心のある方はどなたでも参加できます。

オープンダイアローグとはどのようなものか、医療現場以外（自助会や地域活動の中）でオープンダイアローグや対話がどのように取り入れられているのか、久保田晃祥（とらっち）さんが活動していらっしゃるヴィータ、FLATの活動についてもご紹介頂きます。「聴くと話す」のワークの体験なども取り入れていただきます。

講師：久保田晃祥（とらっち）さん

仙台を拠点に、企業・個人研修、能力開発研修、人材開発コンサルティング、組織開発コンサルティング、自助会運営および支援、カウンセリング、発達障害支援、引きこもり支援事業を行う特定非営利活動法人ヴィータ理事長。一般社団法人オープンダイアローグ・アプローチ研究会FLAT共同代表。

特定非営利活動法人ヴィータホームページ
https://npovita.org/contents/

一般社団法人オープンダイアローグ・アプローチ研究会FLATホームページ
https://od-flat.org/aboutus/outline/

日時：8月9日（土）10：00～12：00
会場：オンラインZOOM
申込み方法：QRコードよりお申し込みください。8/8（木）12：00申込締切。
ZOOMアドレスは、開催前日までに発行いたします。

https://forms.gle/JzZcVKWBK7FrKndw8

《スタッフ研修会》 ※セーフスペーススタッフのみの研修とさせていただきます。

内なる自分の声を聴く。オープンダイアローグの体験。
日時：9月13日（土）10：00～12：30
会場：仙台市内
講師：髙橋比呂志（ロッシー）さん

荒井地区で仙台オープンダイアローグをめざす対話実践研究会 世話人、
オープンダイアローグネットワークジャパン・ネットワーク委員
仙台市若林区荒井周辺での地域貢献を目的として「開荒井オープンダイアローグのつどい」を定期的に開催。

本研修会は、みやぎ生協福祉活動助成を受け開催されます。
問合せ先： nijiyagi.soudan@gmail.com



2025. 6. 10



2025. 6. 10



2025. 7. 12



2025. 7. 12



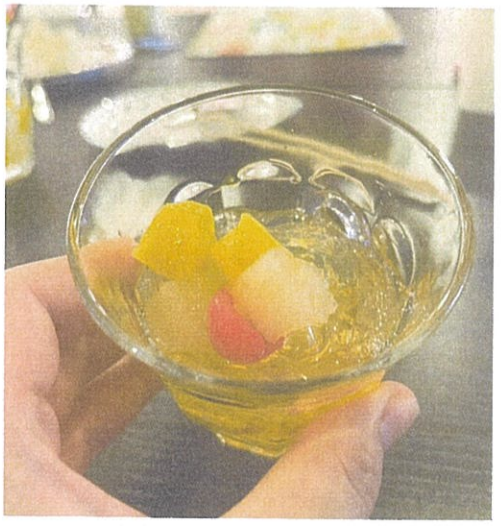
2024. 9. 13



2024. 9. 13



2024. 9. 13



2024. 9. 13